

## 読みたい聴きたい

福岡市内の書店『ブックスキューブリック』のオーナー・大井美さんに、毎回テーマに沿った本と音楽を紹介していただきます。ジャンルを超えて楽しめる作品にぜひ、触れてみてください。

撮影/スタジオパッション

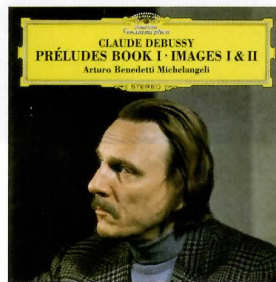
# ココロに、 ウツクシク

## ( 絵画の世界を映し出す )

世界の名画を子どもにも大人にも  
分かりやすく語ってくれた名解説が見物です。

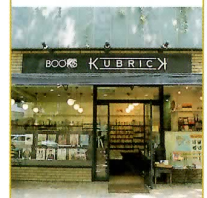


『絵が「ふるえるほど好き」になる』  
MAYA MAXX  
美術出版社  
1,000円(税込)



『ドビュッシー：前奏曲集 第1巻、  
映像第1集、第2集』  
アルトゥーロ・ベネデッティ＝ミケランジェリ  
発売元/ユニバーサル クラシックス&ジャズ  
1,800円(税込)  
CD: UCCG-2023

■ 大井美さん  
話題の一冊から普遍的な作品を揃える福岡市内の書店「ブックスキューブリック」のオーナー。  
◎大井さんが解説を手掛けた、作家・白石一文氏の著作『もしも、私があなただったら』が絶賛発売中。  
ブックスキューブリック  
福岡市中央区赤坂2-1-12 ネオグランデ赤坂1階  
☎092-711-1180 <http://www.bookskubrick.jp>



突然ですがみなさんは、心が揺さぶられるほどの名画に出合ったことはありますか。無意識のうちに作品の世界に引き込まれて、何時間でも見つめていられるような絵に触れたとき、心の底から絵画鑑賞が好きになれるのではないかと私は思います。

今回ご紹介するのは、タイトルの通り「絵がふるえるほど好きになる」ヒントを与えてくれるような一冊です。著者は、絵本や本の装丁も手掛け、若い人を中心に人気を集めている画家のMAYA MAXX。彼女が口

シアのブーシキン美術館を訪れ、フィセント・ファン・ゴッホ、アンリ・マティス、ポール・セザンヌなどの名画を解説しています。といっても、専門誌のように難しい言葉は一切なく、誰にでも分かるやさしい言葉で本質的なことが書かれている。これを読むだけで、今まで遠かった世界の名画がぐっと近くなる気がします。たとえばオーギュスト・ルノワールの作風については、「やっぱりね、ルノワールといえは、肌ですよ。ね。ルノワール自身がどんどん歳をとっていくに従って、生命の豊穡さが、

絵にはものすごいあふれてきている」とか、バプロ・ピカソの『アルルカンと女友達』という作品については、「顔のあたりはすごくキチッと描写しているけれど、あとはサラサラッと描いている。これが意外とできないんです。(中略)天才ゆえの仕業って、こういうところなんですよね」といったふうに、絵を観ることも、描くことも愛している彼女の言葉には、絵の素晴らしさをこの世に伝える使命感のようなものが溢れています。評論家が作品を批評した雑誌や専門書は多くありますが、画

家が他の画家の作品について語っている著作も珍しいので、そういう意味でもこの本は、そんな彼女の名解説が見物の一冊だと思います。

そして、ドビュッシーの『映像』をピアニスト、アルトゥーロ・ミケランジェリが演奏した一枚は、降り注ぐ柔らかい光や、水面に映る葉っぱの影など、繊細で優美な色彩で表現したクロード・モネの絵画のような印象。前号でご紹介したグループと同じように、神格的な雰囲気は好きで、20代の頃からずっと愛聴しています。